

がんばっています！ 学校支援ボランティア

年間延べ1万人以上の市民が、無償ボランティア（学校支援ボランティア）として町内の小中学校で活躍しています。また、個人80名、51団体が「学校支援ボランティア」として登録、ボランティアの希望分野も多岐にわたり、学校運営の大きな力になることが期待されています。

今回は、雨の日も雪の日も休むことなく見守り活動をしている有屋小学校「竜馬っ子見守り隊」を紹介します。



登校時の様子

有屋小学校「竜馬っ子見守り隊」は、不審者等による登下校時の事故が心配される中、学校の要請に応える形で、平成22年9年に結成されました。地区民自ら参加を呼び掛けるなど、積極的な協力体制もあり、現在18名が登校時の見守り活動を行っています。

見守り活動は、各人

の事情にあわせ、できる範囲で無理をしないこととし、学校まで一緒に登校するという形をとっている場合もあります。



学校との情報交換会

竜馬っ子見守り隊

学校では、見守り隊との情報交換会を年3回程度企画し、お互いの情報を交換し合うことで子供たちがより安全な登下校ができるようにしています。

また、ゲームも取り入れた子供たちとの顔合わせ会を開催し、手紙や手作りのお菓子などももらうことから、見守り活動に一段と力が入るようになりました。



子どもたちのゲーム

「竜馬っ子見守り隊」は、地域に見守り活動の大切さを伝え、それぞれの見守り活動の輪を広げています。

家庭教育にこころ相談コーナー

「ありがとう」

「ありがとうは！・・・」とお子さんに言わせようと強要する姿が見られます。お子さんは強要された事は身につきませんが、強要されないと見えなくなってしまう。

感謝の気持ちを言葉に表すのに強要されないと見えませんが、一人での行動が増え、誰かに何かしていただいてもお礼や感謝の言葉が言えないままになってしまいます。

お子さんには言葉としての「ありがとう」ではなく、気持ちとしての「ありがとう」を教えるべきです。

「ありがとう」とは感謝の気持ちを相手に伝えるときの言葉です。まずは言葉の使い方より感じる心を養うことではないでしょうか。お子さん自身に家族が日々、感謝す

ることが大事です。そんなに難しいことはありませんよ。

お手伝いや兄弟の面倒などの小さいことから、生まれてきてくれたこと、感動をたくさんもらったことなどの思い出といったものを抱っこしながら、食事しながら、お風呂に入っている時、寝る前など普段の会話の中で言えたらいいですよ。

お子さんはきっと「ありがとう」の心地よさ、家族の愛、見えないけど大きくて温かいものをたくさん、体に心に吸収してくれると思います。

「ありがとう」の心地よさを感じられる子は強要されなくても自然に表現できるようになるはずですよ。

「ありがとう」の心地よさがあるふれている家庭で心豊かな子育てを実践していきましょう。